



お茶の水女子大学  
Ochanomizu University

# ECCELL 社会人プログラム 変革期の乳幼児教育・ 保育を考える

平成27年度 前学期



## 〔開講科目〕

科目コード: 10500138

**乳幼児教育・保育政策論Ⅲ** (水曜日) 2単位

4/8(水)～7月中 18:20-19:50 逆井直紀

科目コード: 10500149

**現代保育課題研究Ⅸ** (木曜日) 1単位

4/9(木)～7月中 18:20-19:50 浜口順子ほか

科目コード: 10500143

**実践音楽療法Ⅱ** (集中講義) 2単位

5/23(土), 5/30(土), 6/27(土), 7/25(土) 下川英子

科目コード: 10500151

**生活リズムと保育Ⅰ** (集中講義) 1単位

6/6(土), 6/13(土) 堤ちはる

科目コード: 10500147

**子ども家庭支援相談Ⅲ** (集中講義) 1単位

7/11(土), 7/12(日) 安治陽子

科目コード: 10500141

**保育メディア論Ⅱ** (集中講義) 2単位

8/7(金)～8/9(日) 坂上浩子、坂井滋和

新設科目

■ 受講生は「お茶の水女子大学 科目等履修生」として登録され、授業回数の3分の2以上出席する他、一定の条件を満たした場合には、単位が認定されます。

■ **男性も受講可能**です。

■ 開講日時：シラバス（別紙）をご確認ください。

■ 納付金：

検定料 9,800円

入学料 28,200円（継続の場合、3年間有効）

授業料 14,400円（1単位につき）

※本学卒業生・修了生は、入学料が無料となります。

詳しくは、お茶の水女子大学 ECCELL ホームページ  
をご覧ください。

⇒ <http://www.cf.ocha.ac.jp/nyuyoji>

## 応募期間

平成27年2月16日（月）～ 3月2日（月）（※消印有効）

## 応募方法

出願要項・入学願書をお茶の水女子大学ホームページからダウンロードしてください（大学学務課窓口に直接請求することもできます）。  
出願に必要な書類を整えた後、下記送付先までご郵送ください。

⇒ **お茶の水女子大学ホームページ**：<http://www.ocha.ac.jp/>

## 〔願書送付先〕

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 お茶の水女子大学 学務課（電話：03-5978-2722）

## 〔問い合わせ先〕

お茶の水女子大学 ECCELL 社会人プログラム（特別設置科目）担当  
電話：03-5978-5949 E-mail：[nyuyoji-info@cc.ocha.ac.jp](mailto:nyuyoji-info@cc.ocha.ac.jp)

# 平成27年度 前学期 開講科目

## ■乳幼児教育・保育政策論Ⅲ（水曜日）

逆井 直紀（保育研究所 常任理事）

2015年4月から、子ども・子育て支援新制度がスタートし、戦後築かれた幼児教育や保育の制度が、大きく切り替えられようとしています。今まさに、日本の幼児教育や保育は転換期にあり、ここ数年で劇的な変化を遂げることになると予測されています。実際に幼稚園・保育所等において日々行われている保育は、政策や制度の影響を大きく受けており、その制度・政策のありようを考えることは、保育実践を主体的に行う上で不可欠な作業といえます。前期授業では、非常に複雑な新制度の概要を理解することを中心課題にしますが、制度解説にとどまらず、子どもに関わる法令や、政策や制度に関わる基礎的・原理的な事項の理解を深めるとともに、政策・制度の歴史的な動向を整理します。また、社会問題としてクローズアップされている子どもの貧困の問題や、大都市部で深刻な待機児童問題など、折々に保育の現状をリアルにとらえられるような情報等を織りこんで、抽象的な学びにならないような工夫をしていきます。

## ■現代保育課題研究Ⅸ（木曜日）

浜口 順子（お茶の水女子大学大学院 教授）ほか

本授業では、受講生自身の関心をもとに、乳幼児の保育や教育に関する問題や、保育現場などで直面するさまざまな課題について、各自研究テーマを設定し、ゼミ形式で話し合いながら研究レポートの作成をめざします。たとえば、子どもの発達や育ちと保育の関係、実践現場における子育て支援のあり方、観察記録やカンファレンスの活用、保育環境や表現の問題、海外の保育との比較や保育の歴史など、各自のテーマについて検討を行ったり、読書会をするなどして、問題関心を深めていきます。人数が多い場合は、研究テーマによって少人数のグループに分かれるなど、柔軟に対応したいと思います。学期末に、学習・研究結果をまとめて発表しますが、希望者には日本保育学会などでの発表もサポートします。

## ■実践音楽療法Ⅱ（集中講義：5/23(土), 5/30(土), 6/27(土), 7/25(土)）

下川 英子（埼玉療育園 音楽療法士）

「保育・統合保育・特別支援教育に生かす音楽療法」をテーマとして、子どもの音楽療法の視点から音楽の拡がりを考え、障がいの有無によらず子どもの発信を受けとめ、コミュニケーションや自己表現を大切にする音楽活動を体験し、柔軟な即興力を身につけることを目標とします。能動的音楽療法は子どもの発するものを大切にして、表出を促したり、他者とのコミュニケーションを深めたりしながら、色々な問題の改善へ向けてゆきます。保育指針にも音楽療法の目的に近似した内容が書かれています。目ざましく発育・発達する子どもにも、ゆっくりな歩みの子どもにも、この時期に大切なものが何なのかを考えて行きましょう。おとなが柔軟な即興力を持つことが、子どもの発信に応えるひとつの鍵になると思います。

## ■生活リズムと保育Ⅰ（集中講義：6/6（土）、6/13（土））

堤 ちはる（相模女子大学 栄養科学研究科・健康栄養学科 教授）

妊娠期・授乳期から乳幼児期に至るまでの身体的、精神的特徴を理解した上で、食生活・栄養の課題を明確にし、それぞれ実際の場面に展開していきます。さらに、現場で子育てを支援する保育士や幼稚園教諭には何が求められているのか、また、その求めに応じられる人材となるために、どのような学びをしたらよいかについても「保育の現場」の視点で考えていきます。授業は、子どもの特性を活かした「食」の支援を行うために必要な基礎的知識・技術の修得と共に、自らの「食」に対する意識を高めるように進めていきます。

## ■保育メディア論Ⅱ（集中講義：8/7（金）～8/9（日））

坂上 浩子（NHK エデュケーショナルこども幼児部 統括部長）坂井 滋和（早稲田大学理工学術院 教授）

インターネットに代表される新しいメディアの普及によって、我々を取巻くメディア環境が大きく変化しつつあります。本講義では、こうした状況の下で子どもたちのメディア・リテラシーの土台となる家庭や保育環境をどのように捉え、構築・実践してゆくかについて、乳幼児向けコンテンツ制作の専門家の立場から解説を行ない、受講者間の意見交換を通じて論考を深めてゆきます。

## ■子ども家庭支援相談Ⅲ（集中講義：7/11（土）～7/12（日））

安治 陽子（お茶の水女子大学人間発達教育研究センター 特任講師）

子どもと家族は、保育の場と家庭を行き来し、その両方を基盤として生活し、さまざまなことを経験しながら成長していきます。日々の生活の中には変化や波があり、それまでの親子の歴史や現在の課題、保育のあり方などと複雑に絡み合っており、その育ちと課題はそれぞれに多様な表れ方をします。日々の保育実践の中で、このような子どもと家族にかかわり、親子の発達と適応を支援していくことは、今後ますます必要とされる保育者の専門性です。子どもと家族の支援にかかわる理論および技法について、子どもの発達や家族機能のアセスメント、相談支援、他機関との連携なども視野に入れながら、実践的に学びます。